

***Mammal Study* は BioOne Subscribe to Open (S2O)パイロットプログラムに参加します**

2026 年より *Mammal Study* は、出版パートナーである BioOne を通じて、Subscribe to Open (S2O)パイロットプログラムに参加します。S2O は、*Mammal Study*に掲載される論文をオープンアクセスとする方法を提供する一つの出版モデルです。S2O が成立すると、*Mammal Study* にその年に掲載される全ての論文がオープンアクセスとなります。その一方で、論文アクセスによる学会の購読料収入はなくなります。しかし、パイロットプログラムの期間となる 2026 年から 2028 年の 3 年間には、これまでの論文アクセスの実績に基づき購読料による収入が確保されます。

S2O パイロットプログラムへの参加は *Mammal Study* の著者や読者にとって何を意味するのでしょうか？S2O が成立すれば、つまり雑誌の購読機関が費用対効果があると判断して、これまでと同様に購読料を払い続ける場合、*Mammal Study* のその年のコンテンツは(他の 70 の参加雑誌の論文とともに)、オープンアクセスとして提供され、世界中のユーザーが無料で論文を利用することが可能となります。購読機関が契約を更新しなかった場合は(S2O 不成立の場合)、コンテンツはこれまでと同様に学会員のみ公開されます。そして論文アクセスに基づく購読料が発生します。これは、3 年間の S2O パイロットプログラムの間、毎年繰り返されます。

なぜ日本哺乳類学会はパイロットプログラムへの参加を選んだのでしょうか？日本哺乳類学会は、研究成果を広く共有することが、すべての人にとって有益であると考えています。S2O により *Mammal Study* へのアクセスをこれまで以上に世界中の人々に広げることが実現可能となります。S2O を取り入れた出版社は、S2O の導入により、出版物の利用数が増加していることを報告しています。さらに、S2O 成立により、論文の著者は高額なオープンアクセス料金を支払うことを避けることができます。

S2O はその年のコンテンツにのみ適用されます。たとえば、BioOne の S2O が最初の年(2026 年)に成立した場合、*Mammal Study* の 2026 年発行の巻のみがオープンアクセスになります。過去の巻はオープンアクセスとはならず、これまで通り購読機関や学会員へのみ提供されます。S2O を通じてオープンアクセスになった論文は、永久にオープンアクセスのままとなります。

BioOne のパイロットプログラムには、54 の学会および独立系出版社が参加しており、これは一つの S2O プログラムに参加している非営利出版社の数としては最大です。日本哺乳類学会は BioOne のパイロットプログラムに参加し、知識の共有を促進したいと考えています。BioOne の S2O パイロットプログラムに参加している他の学会や出版社、およびこの取り組みを支援する図書館に関する詳細情報は、BioOne の S2O ウェブページ <https://bioonepublishing.org/our-work/subscribe-to-open/> をご覧ください。

これから *Mammal Study* に受理される原稿は基本的に 2026 年以降の出版となりますので、S2O が成立すれば無料でオープンアクセスとなります。会員の皆様には、ぜひこの機会を利用して *Mammal Study* への積極的な投稿をお願いします。さらに S2O についてお知りになりたい方は、編集長の天野または英文誌オンライン出版担当の飯島までお問い合わせください。